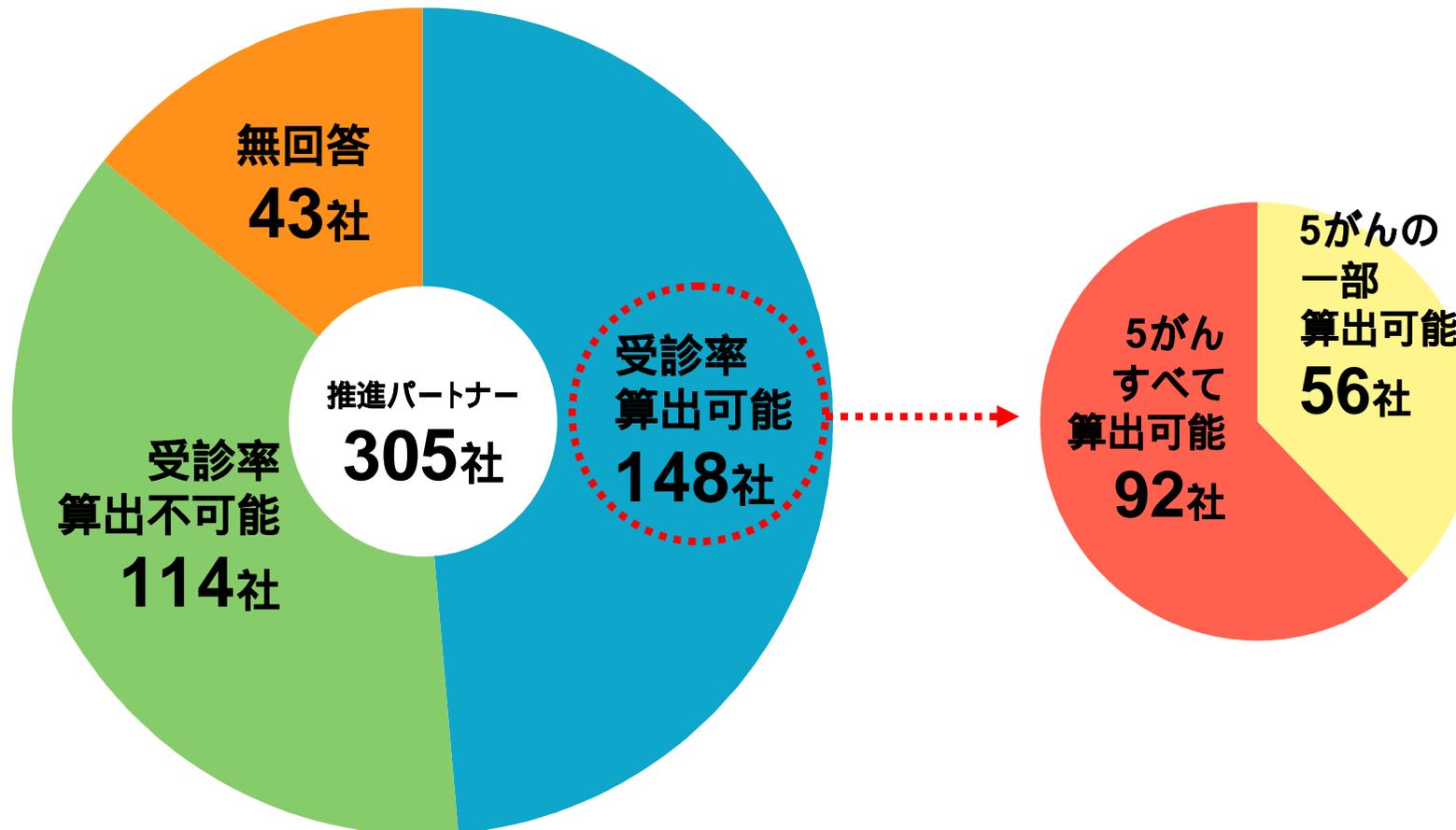


# 推進パートナー企業団体の 検診検査項目・受診率アンケート集計結果

# 【参考資料】 推進パートナーアンケート回収状況



この数値は、推進パートナー登録申請書にご記入いただいた内容をまとめたものです。  
推進パートナー企業数は、11月29日現在です。

# 【参考資料】アンケート集計結果(定量調査)



## 【がん検診 検診項目】 アンケート回収数 = 81社

下記の受診率及び更新項目のデータは、推進パートナー企業様からご回答いただいたデータをまとめたものです

	検診内容	企業数
胃がん	問診	25
	胃部エックス線検査	63
	胃内視鏡検査(胃カメラ)	28
	ペプシノゲン検査	7
	ヘリコバクターピロリ菌抗体検査	6
	検診項目の併用	8
肺がん	問診	25
	胸部エックス線検査	63
	喀痰細胞診	16
	胸部CT検査	14
	検診項目の併用	4
大腸がん	問診	23
	便潜血検査	68
	一日法	16
	二日法	52
	全大腸内視鏡検査	3
	注腸X線検査	2
	直腸指診断	3
	検診項目の併用	7

	検診内容	企業数
子宮頸がん	問診	29
	視診	19
	子宮頸部細胞診	53
	自己採取	13
	医師採取	44
	内診	19
	検診項目の併用	10
乳がん	問診	26
	視触診	32
	乳房エックス線検査(マンモグラフィー)	48
	超音波検査(エコー)	39
	検診項目の併用	10

(複数回答)

## 【参考資料】アンケート集計結果(定量調査)

【がん検診 受診率】 アンケート回収数 = 81社

下記の受診率及び更新項目のデータは、推進パートナー企業様からご回答いただいたデータをまとめたものです

	従業員		被扶養者	
	受診率	算出企業数	受診率	算出企業数
胃がん	<b>70.6%</b>	45社	<b>39.2%</b>	22社
肺がん	<b>85.7%</b>	45社	<b>45.5%</b>	20社
大腸がん	<b>68.3%</b>	44社	<b>41.5%</b>	21社
子宮頸がん	<b>44.0%</b>	34社	<b>33.4%</b>	19社
乳がん	<b>53.5%</b>	36社	<b>38.8%</b>	18社

上記の受診率は、対象年齢・算出方法など一定ではないため、参考値としてご覧ください。

## 【がん検診 受診率分布】

下記の受診率及び更新項目のデータは、推進パートナー企業様からご回答いただいたデータをまとめたものです

### 胃がん

	受診率平均	集計企業数	0 }	11 }	21 }	31 }	41 }	51 }	61 }	71 }	81 }	91 }	100 %
			10 %	20 %	30 %	40 %	50 %	60 %	70 %	80 %	90 %	100 %	
従業員	70.6%	45社	2社	0社	1社	2社	2社	6社	7社	7社	7社	11社	
被扶養者	39.2%	22社	2社	2社	3社	3社	6社	3社	2社	1社	0社	0社	

上記の受診率は、対象年齢・算出方法など一定ではないため、参考値としてご覧ください。

## 【がん検診 受診率分布】

下記の受診率及び更新項目のデータは、推進パートナー企業様からご回答いただいたデータをまとめたものです

### 肺がん

	受診率平均	集計企業数	0 }	11 }	21 }	31 }	41 }	51 }	61 }	71 }	81 }	91 }	100 %
従業員	85.7%	45社	1社	0社	1社	2社	0社	3社	2社	1社	3社	32社	
被扶養者	45.5%	20社	1社	2社	1社	3社	3社	6社	3社	1社	0社	0社	

上記の受診率は、対象年齢・算出方法など一定ではないため、参考値としてご覧ください。

## 【がん検診 受診率分布】

下記の受診率及び更新項目のデータは、推進パートナー企業様からご回答いただいたデータをまとめたものです

### 大腸がん

	受診率平均	集計企業数	0 }	11 }	21 }	31 }	41 }	51 }	61 }	71 }	81 }	91 }
			10 %	20 %	30 %	40 %	50 %	60 %	70 %	80 %	90 %	100 %
従業員	68.3%	44社	2社	0社	1社	4社	2社	7社	6社	7社	2社	13社
被扶養者	41.5%	21社	2社	1社	3社	2社	7社	3社	2社	1社	0社	0社

上記の受診率は、対象年齢・算出方法など一定ではないため、参考値としてご覧ください。

## 【がん検診 受診率分布】

下記の受診率及び更新項目のデータは、推進パートナー企業様からご回答いただいたデータをまとめたものです

### 子宮頸がん

	受診率平均	集計企業数	0 }	11 }	21 }	31 }	41 }	51 }	61 }	71 }	81 }	91 }
			10 %	20 %	30 %	40 %	50 %	60 %	70 %	80 %	90 %	100 %
従業員	44.0%	34社	5社	2社	7社	4社	4社	2社	2社	1社	1社	6社
被扶養者	33.4%	19社	2社	2社	5社	2社	4社	2社	2社	0社	0社	0社

上記の受診率は、対象年齢・算出方法など一定ではないため、参考値としてご覧ください。

# 【参考資料】アンケート集計結果(定量調査)

## 【がん検診 受診率分布】

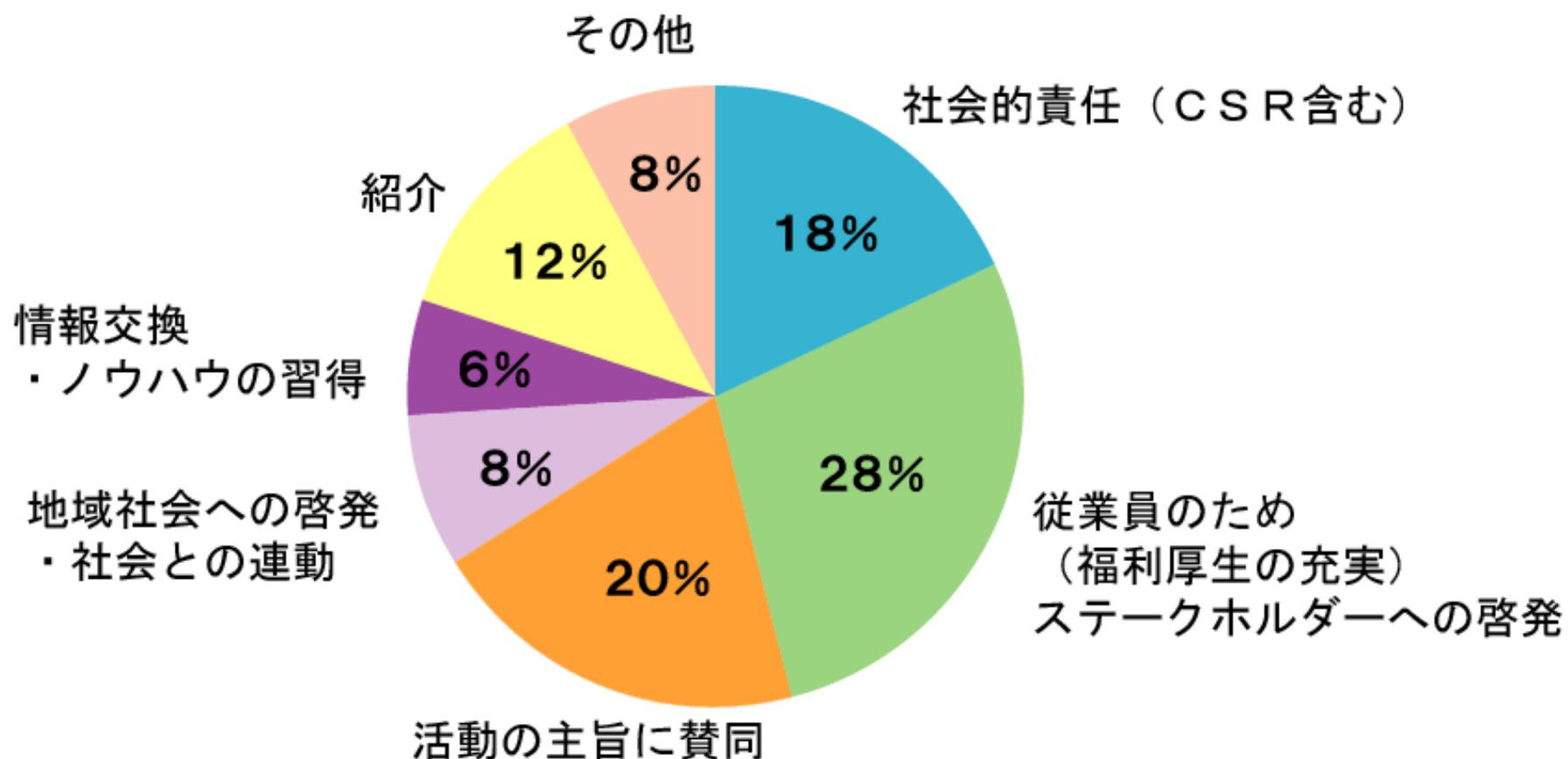
下記の受診率及び更新項目のデータは、推進パートナー企業様からご回答いただいたデータをまとめたものです

### 乳がん

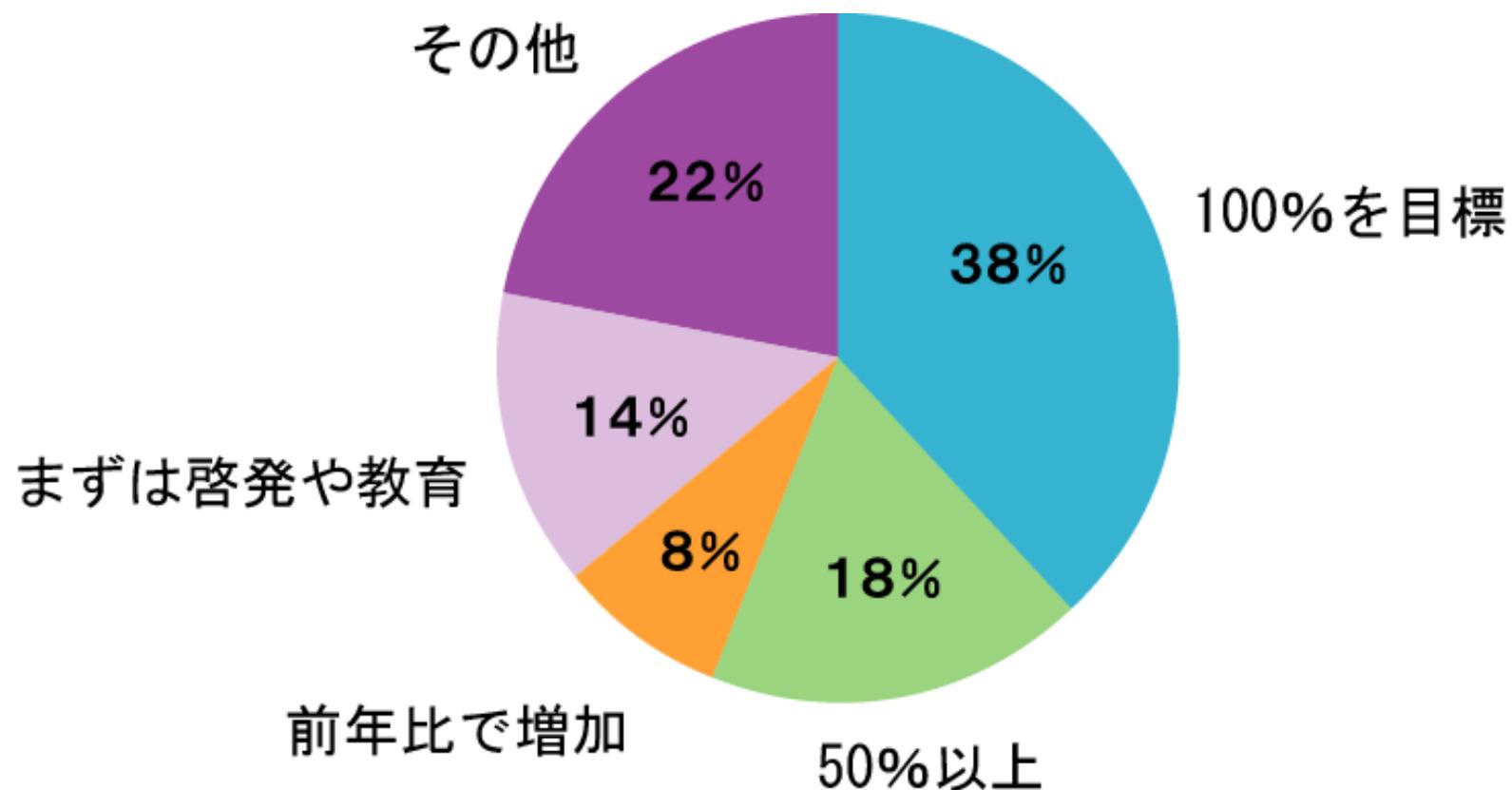
	受診率平均	集計企業数	0 }	11 }	21 }	31 }	41 }	51 }	61 }	71 }	81 }	91 }
			10 %	20 %	30 %	40 %	50 %	60 %	70 %	80 %	90 %	100 %
従業員	53.5%	36社	3社	0社	4社	5社	7社	3社	4社	4社	1社	5社
被扶養者	38.8%	18社	1社	0社	4社	5社	4社	3社	1社	0社	0社	0社

上記の受診率は、対象年齢・算出方法など一定ではないため、参考値としてご覧ください。

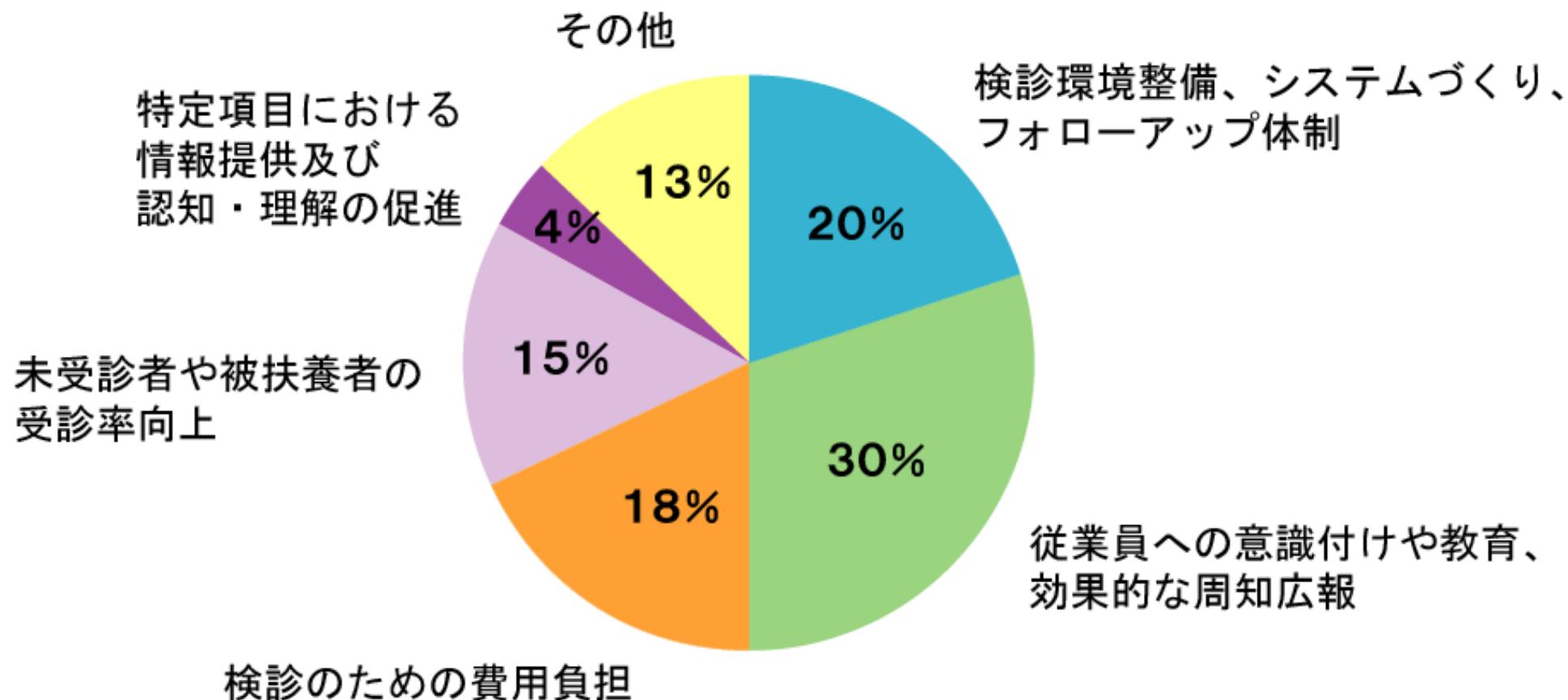
## 推進パートナー企業に参加した動機(定性調査)



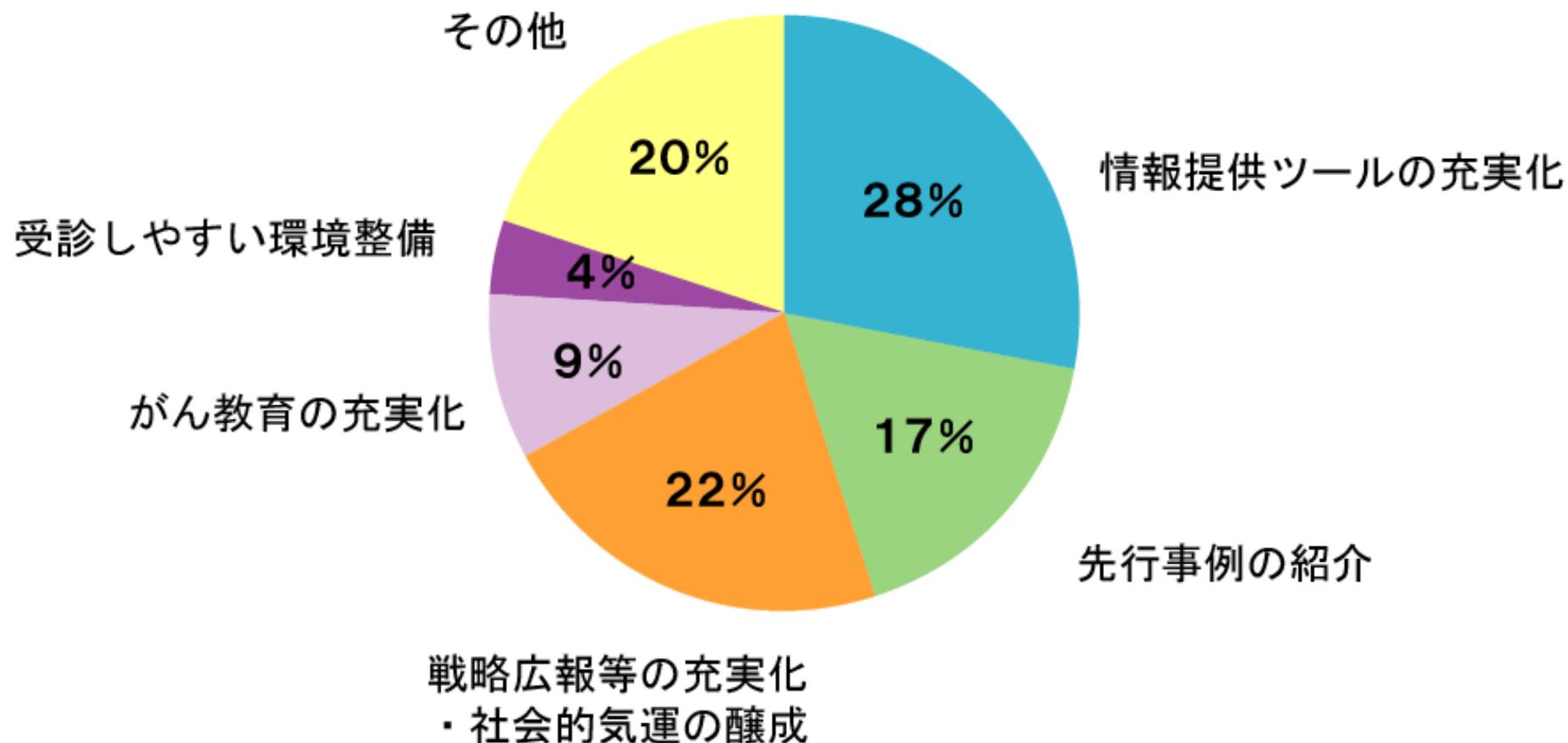
従業員とその家族を守る主旨に賛同し、地域や社会全体にもがん検診の重要性を啓発したい。



まずは従業員に対するがん検診の重要性を啓発し、出来るところから取り組み、少しでも現状より受診率を向上させたい。



がん検診意識の向上、費用負担の軽減、検診しやすい場の提供、被扶養者への実施方法の改善が必要。



企業、団体、地域との連携により、がん検診の意識を高め、  
早期発見・早期治療・早期職場復帰につなげる。

- ・がんによる死亡率(人口当たり)が、日本一であるという県の現状を改善していくため、弊社も地域の責任ある企業として、率先して取り組む必要のあるテーマであると思ったから
- ・自社のCSR活動の一環として参加
- ・会社の財産である社員とその家族を「がん」から守る主旨に賛同したため
- ・40代から60代の女性が非常に多く、多くの業務で中核的な役割を担ってもらっている。がんの早期発見・早期治療によって、技術を持った社員が早く職場復帰できるような体制をつくりたいから
- ・現在実施中のがん検診の受診率の向上と23年度を目途に子宮がん(医師による採取)・乳がん検診の導入を検討中で、この実施に関して情報交換や情報提供を希望しているため
- ・がん検診に関する理解を深め、従業員とその家族の命を守るため、他社の取り組みや事例を参考にし、がん検診受診率を高めがんの早期発見・早期治療ができるようにするため

- ・23年度中に子宮がん・乳がんの検診を導入し、その他現在実施中のがん検診受診率を前年比で増加させていきたい
- ・可能な限り受診率100%に近づける
- ・早期発見・早期治療
- ・まずは、従業員に対するがん検診の重要性を啓発する
- ・現在40歳以上の社員は、がん検診の受診率はほぼ100%で、年1回の検診は定着している状況にある。今後の目標は、受診率が60%となっている、乳がん、子宮頸がんについて、更なる受診率の向上を考えている。
- ・被扶養者検診の受診率向上
- ・女性特有のがん検診受診の推進と負担の軽減する。退職者に対しても、がん検診受診の機会を提供する。

- ・検診結果を早期発見、早期治療につなげるフォロー体制づくり
- ・未受診者への啓発
- ・現在検診項目からもれている乳がん検診の実施
- ・企業負担や補助を多くし、個人負担をいかに少なくするか
- ・職场上長の理解
- ・経費の負担増加に対する対策
- ・被扶養者については、実施開始3年目になるが、22～23%と頭打ちの状態
- ・検診を受診している人は、翌年もきちんと受けており、受けない人にはなかなか受けてもらえない。受けていない人たちにどう受診を促していくかということが大事で、その有効なアプローチの仕方が最大の課題

- ・広報活動の充実
- ・最新かつ正確な情報の提供
- ・広報用の無償ツールの充実(ポスター、小冊子、パンフレット、DVD、動画等)
- ・経営層の耳に届くような活動の実施
- ・行政と共に地域でシンポジウム等実施して欲しい
- ・受診率が高い、受診率向上に実績がある先進企業または団体の事例発表
- ・がん検診を受診して早期発見、早期治療し、完治した方々の事例集の発行(小冊子等で)
- ・本アクションプランの継続性と、企業、団体、学校などにこの事業が浸透することによって国民の「がん検診」に対する意識が高まり、健康で豊かな社会づくりに資すること

- ・検診を進めることによる健保財政の圧迫
- ・参加企業が何をすればいいのか解らず辞めてしまうこと
- ・啓発活動にかかる費用捻出と人員体制の構築・経営層の耳に届くような活動の実施
- ・検診費用負担の問題
- ・被扶養者の検診受診状況について正確な把握が困難
- ・がん検診については、受診の義務はないため、受診勧奨が「強制的」ととらえられるとトラブルの要因になりうる
- ・強制力がないので、単なるパフォーマンス(形骸化しないような)にならない工夫が求められる。継続性と実効性

- ・健康診断結果をスコア化して健康リスクがひと目で確認でき、がん検診結果が認識され、受診率の向上がなされるよう「健診データの見える化」を行っている
- ・社内イントラでのがん検診ページを作成。検診内容や、現在の受診率、受診方法、取材の様子などを掲載
- ・社内報で各種がんについてシリーズで広報している
- ・人間ドックでない34歳以下の希望者に対しても、胃部内視鏡(無料)、婦人科健診(健保補助5,000円あり)などをオプションで受けられるように制度を整えた
- ・がん検診の検査項目が含まれる人間ドックの受診について、新たに35歳の社員を対象とした節目健診を開始した
- ・事業所責任者と個人へのメールでの呼びかけ
- ・本事業への参加について取引先の共感を得て、取引先企業との深耕が深まるとともに、それをきっかけとして、がん検診啓発セミナーの開催を10月に計画